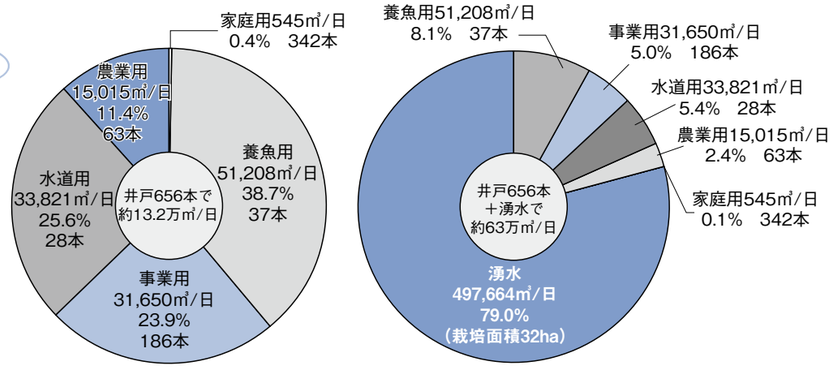
特集

安曇野ルール

先人からの恵みを明日へ……



◆井戸取水量　◆湧水量・井戸取水量

■市内の地下水利用状況

井戸の取水総量は、約 13.2 万 m^3/ 日。ワサビ栽培や養鱒等に利用されている湧水量は、約 50 万 m^3/ 日と試算。平成 23 年調査（地下水資源強化活用指針より）

［ワサビ栽培］

Wasabi

実効性のあるルール作りを

渇水の影響でワサビが1本も育てられず、栽培をあきらめかけた時期もあった

信州山葵（わさび）農業協同組合 副組合長
丸山　光弘さん（豊科・細萱65歳）

安曇野のワサビ栽培は、明治時代の終わりに梨畑の排水路を利用して始まりました。その後、鉄道が開通したことで販路が広がり、大きく発展しました。平成23年の長野県のワサビ生産量を見ると990トンで全国1位。そのうち約9割が安曇野産で、市の平成23年のワサビの作付面積は32ヘクタールでした。

ワサビ栽培に携わり、約40年という丸山光弘さんは、1ダル（ヘクタール）ほどのワサビ田で、約1年半かけて育てたワサビを、主に地元の加工業者や東京方面に出荷しています。

丸山さんはワサビ田にパイプを差して10年以上にわたり簡易的に毎月の地下水位を観測していますが「年間の水位はずっと減り続けてきたが、ここ2年間くらいは持ち直している。今年は降水が少なかったので3年前の最悪の水準に戻らなければいいが…」と懸念しています。近年の渇水の影響について丸山さんは「6年ほど前には、渇水の影響から約3分の1のワサビ田が栽培できなかった。栽培できないワサビ田は草だらけになり、1日でダンプ5～10台分の草を処分したこともあった。除草剤も使えないためワサビは1本も育てられず、栽培をあきらめかけた時期もあった。しかし、祖父の代から受け継いだ家業を続けるために、寒さをしのげて安定的に栽培できるハウス栽培に露地栽培から切りかえ、何とか持ち直すことができた」と振り返ります。

地下水保全対策研究委員会の委員でもある丸山さんは、安曇野ルールについて「地下水の取水ルールは、しっかり規制ができる実効性のあるものにすべきだ。ハウスなどの設備投資もあり、経営は決して楽ではないが、湧水の恩恵を受けているものが、相応の費用負担をすることは、やむを得ないと思う」と言います。また、地下水利用について「確かに地下水をくみ上げる権利は、民法上では土地の所有者にある。しかし、ワサビ栽培は、100年以上にわたり代々受け継がれてきた安曇野の地場産業であり、土地所有者は、地場産業が衰退してしまうような地下水のくみ上げは行わないように配慮すべきである。また、大量に地下水を利用する者は、積極的に地下水の涵養に取り組む責務があると思う」と話してくれました。

地下水の今を聞く

信州サーモンの選別作業。稚魚から約２年、全長 50 ～ 60 センチメートル、体重 1.5 ～２キログラムで出荷。

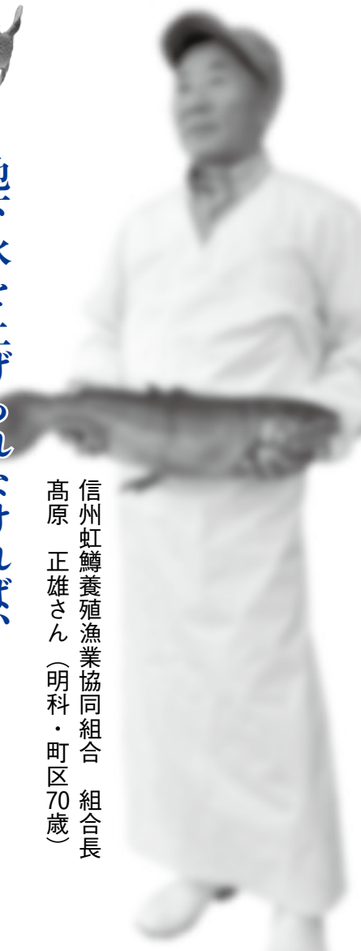
［ニジマス養殖］

Shinshu Salmon

松本平全体での広域的な取り組みを

地下水を上げられなければ、安曇野のニジマス養殖は全滅してしまう

信州虹鱒養殖漁業協同組合　組合長
髙原　正雄さん（明科・町区70歳）



髙原さんは、穂高・有明の養殖池で地下水をくみ上げニジマスの稚魚を養殖し、20～30グラムに育った時点で、明科の養殖池に移し、育て出荷しています。これは、稚魚を育てるには無菌の地下水が欠かせないためです。有明で地下水をくみ上げることになったきっかけについて「昭和50年前後に外国からサケが輸入され、一般家庭を介してサケに付着していたウイルスが河川に流れ出て、ニジマスの稚魚がこれに感染し全滅してしまった。必死で稚魚を育てる環境を探した」と当時を振り返り、「もし、地下水を上げられないということになれば、安曇野のニジマス養殖業は全滅してしまう」とも言います。

地下水保全対策研究委員会の委員でもある髙原さんは、地下水の涵養について「ニジマス業者は地下水を大量に使用するため、悪者扱いされがちだ。くみ上げた水は河川等に戻し、循環利用しているものの、恩恵を受けている者として、今後地下水の涵養に取り組まなければならない。地下水量を元に戻すには、みんなで課題を把握することが大切だと思う」と言います。また、安曇野ルールについて「地下水をみんなの共有財産と位置付けるならば、地下水を保全するための規制や事業を推進するための費用負担などを含め、市だけでなく広域的に、松本平全体で取り組むべき課題だ」と話してくれました。

髙原さんは、自然環境の変化について「昭和40年ごろは、毎秒2トン以上あった湧水量が、今では約5分の1に減少した。ダムができたことなどにより川底が削られ低くなり、川の中で水が湧き出していることも要因の一つだと思う。その他にも農業用水路がコンクリートに整備されたことや水田の減反政策など行政が進めてきた政策の影響も大きいのでは…」と話します。